

# 競技注意事項

## 1. 規則について

本大会は2017年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

## 2. 競技場使用上の注意

- 1) 当該種目出場競技者、競技役員、主催者が許可した報道関係者以外は、競技エリア、ダッグアウトへの立ち入りを禁止する。
- 2) ダッグアウト、コンコースでの練習は、事故防止のため厳禁とする。
- 3) コンコースの待機場所におけるテントの設営は厳禁とする。北・南サイドスタンドの芝生部分に設営することは認めるが1日ごとに必ず撤去すること。
- 4) 更衣室は指定された場所を厳守して使用し、荷物は各大学が責任を持って管理すること。また、貴重品類は各自で保管し、万一のことがあっても主催者が責任を負うことはない。
- 5) 更衣室は各日、使用した大学が使用後清掃すること。
- 6) 競技場内におけるテープ等での貼り付けは一切禁止する。
- 7) 競技場内の全ての電源は、主催者の許可なく使用してはならない。
- 8) フィールド競技の練習は、競技役員の指示に従い競技開始前に各々の競技場所にて行うこと。
- 9) グラウンド及び練習場では、競技場保護のため水以外の飲料の持ち込みは厳禁とする。
- 10) トレーナーステーションでのトレーナー活動は、事前に大会本部の許可を受けた参加校に限る。また、更衣室でのトレーナー活動は一切禁止する。
- 11) 競技場では、スパイクの先端が鋭利なもの（全天候ニードル型スパイク）の使用を禁止する。

## 3. 練習場について

- 1) 練習は各個人が事故防止に万全を期すこと。なお、練習中に発生した疾病・傷害等については、応急処置は主催者で行うが、以後の責任は負わない。
- 2) 練習は相模原ギオンフィールド、雨天走路を利用すること。なお、投てき物（メディシンボールを含む）及び紙雷管を使用しての練習は厳禁とする。
- 3) 男女ハンマー投、女子混成走高跳が行われる時間帯は一部の区間で練習を制限することがある。競技役員の指示に必ず従い練習すること。
- 4) レーンの使用は、原則として以下の通りとする。なお、逆走は厳禁とする。  
【1~2 レーン】：中・長距離  
【3~4 レーン】：短距離（スタートダッシュは100m スタート地点）  
【5~6 レーン】（ホームストレート）：100mH・110mH（15日、16日）、短距離（17日）  
【5~6 レーン】（バックストレート）：100mH・110mH（15日）  
【5~6 レーン】（第1曲走路からバックストレート）：400mH（16日、17日）  
※5 レーンを女子専用、6 レーンを男子専用とする。
- 5) 本競技場からの用器具の持ち出しは厳禁とする。
- 6) リレーのバトン練習や器具を用いた練習は、周囲に声をかけ事故のないように十分注意すること。

## 4. 競技者の招集について

- 1) 招集所は競技場Aゲート（諸室図参照）に設置する。
- 2) 競技者の競技エリアへの入場は競技役員の指示による。
- 3) 各種目の招集開始・完了時刻は競技日程記載の通りとし、招集開始時刻に競技者係から競技

者本人が点呼を受ける。

- 4) 代理人による点呼は認めない。ただし、2種目以上を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人または代理人が「重複出場者届」(招集所に用意)を、**招集を受けることができない種目の招集開始時刻までに**、競技者係(招集所)に提出すること。
- 5) 競技者はビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技エリア内に持ち込んではならない。スマートウォッチについては電波を発信しない状態(機内モードなど)に設定している場合のみ、持ち込みを認める。
- 6) リレー種目は、オーダー変更の有無にかかわらず、ラウンド毎に「リレーオーダー用紙」(招集所に用意)を、**当該種目第1組の招集完了時刻1時間前までに**競技者係(招集所)に提出すること(メンバーについては競技規則第170条10を参照のこと)。
- 7) 招集完了時刻に遅れたり、「重複出場者届」及び「リレーオーダー用紙」がそれぞれの指定された時刻までに提出されない場合、当該種目を棄権したものとして処理するので注意すること。
- 8) 棒高跳の練習は競技実施場所で、競技開始時刻1時間前から行うことができる。また棒高跳の招集は競技実施場所にて行う。
- 9) 混成種目の招集時刻については「9. 競技について 4) 混成競技について①」を参照すること。

## 5. ナンバーカードについて

- 1) ナンバーカードは1名につき2枚配付する。そのままの大きさで胸と背に確実につけること。ただし、全ての跳躍種目出場者は胸、または背だけでもよい。
- 2) すべてのナンバーカードは折り曲げたりしてはならない。
- 3) トランク種目出場者は、競技者係(招集所)が配付する写真判定用腰ナンバー標識(競技終了の度に回収)を右腰の上部、やや後ろにつけること。ただし、100m、200m、3000m、5000m、110mH、100mH、10000mW、4×400mRの第4走者については両腰に腰ナンバー標識をつけること。なお、5000m、10000mWにおいては、周回の確認のため、トランスポンダー付きの腰ナンバー標識を使用する。トランスポンダー付きの腰ナンバー標識は左腰につけ、通常の腰ナンバー標識を右腰につけること。
- 4) 3000m、5000m、10000mW、4×400mR出場者には、レース用特別ナンバーカードを配付する。**当該種目第1組の招集完了時刻1時間前までに、招集所へ受け取りに来ること。**また、その際には確認のため事前に配付したナンバーカードを必ず持参すること。
- 5) ナンバーカードの地色、数字の色は次の通りとする。

種 目	配 色
● 男子	黄色地×黒数字
● 女子	ピンク地×黒数字
● 3000m・5000m・4×400mR	白地×黒数字
● 10000mW	白地×赤数字(男子) 白地×赤数字(女子)

## 6. 弃権について

エントリー後、病気または事故等によりやむなく棄権する場合は「不出場届」(大会本部指定の用紙を招集所に用意)に必要事項を記入、押印し競技者係に提出すること。ただし、9月14日(木)の代表者会議にて棄権が承認された場合は提出しなくてよい。

## 7. 競技の抽選・番組編成について

- 1) トラック種目のレーン順・フィールド競技の試技順は、プログラム記載の通りとする。
- 2) 予選以降の組み合わせ、およびレーン順は主催者が公正に抽選する。
- 3) 本大会は対校戦ではないため、番組編成における同所属は配慮しない。
- 4) リレー種目は、A 決勝進出チーム以外の記録上位 8 チームによる B 決勝を実施する。
- 5) タイムによる次のラウンドへの進出者を決定する時に、最終枠に同記録があり、レーンが不足する場合は、写真判定員主任が 0.001 秒単位の時間を判定して進出者を決定する。それでも決定できない場合は、当該競技者もしくはその委任を受けた代理人により抽選を行い、決定する。

## 8. 用器具について

- 1) 競技に使用する用器具（棒高跳用ポール・やりを除く）は、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。
- 2) 走高跳・棒高跳の練習に関しては、本連盟で用意するゴム製バーを使用し練習すること。
- 3) やりに関して、持ち込みを希望する場合は、当該種目の競技開始時刻 1 時間 30 分前から 1 時間前までに器具庫 A（諸室図参照）にて、公式計測員の検査を受けること。検査に合格した用器具については「預り証」を発行の上、主催者で一括して借り上げ、参加競技者間で共有できるものとする。また、破損等については持ち込み者個人の責任とし、主催者が責任を負うことはない。なお、競技終了後に競技実施場所にて、「預り証」を確認の上、公式計測員が返却する。

## 9. 競技について

### 1) トラック競技

- ① 計時はすべて電気計時（0.01 秒）を用いて行う。
- ② 100m、200m、100mH 及び 110mH は、気象条件によっては、バックストレートで実施する。
- ③ 男女 10000mWにおいて、男子は 58 分 00 秒、女子は 63 分 00 秒で残り 1 周に達していない者は失格とし、競技を中止させる場合がある。
- ④ 5000m 以上の種目では、バックストレートに給水所を設置し、水及びスポンジを用意する。なお、給水後のコップ、スポンジについては他の競技者の妨害になるような捨て方は厳禁とする。
- ⑤ リレー種目で同大学が 2 チームエントリーする際のユニフォームは、異なる色を着用すること。

### 2) 跳躍競技

- ① 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は以下の通りとする（ただし、天候等の状況により変更することもある）。

種目		1	2	3	4	5	6	7	以降
走高跳	男子	1m95	2m00	2m05	2m08	2m11	2m14	2m17	+3cm
	女子	1m50	1m55	1m60	1m65	1m68	1m71	1m74	
棒高跳	男子	4m50	4m60	4m70	4m80	4m90	5m00	5m10	+5cm
	女子	2m70	2m90	3m10	3m30	3m40	3m50	3m60	

※練習の高さは競技場所にて複数提示され、競技者はその中から選択する。

- ② 走幅跳及び三段跳は 2 ピットで行う。なお、トップ 8 確定後の 4 回目以降の試技について

ても各自のピットで行う。

- ③ 三段跳の踏切板の位置は、砂場に近いほうの端から男子 12m、女子 10m とする。
- ④ 練習跳躍を除き、踏み切り位置を当該競技者に示さないこととする。

3) 投てき競技

- ① やり投は風向きに関わらず B ゾーンで行う。
- ② サークルを使用しての投てき練習は 1 人 1 回につき 1 分以内とする。

4) 混成競技について

- ① 招集は 1 日目、2 日目の最初の競技種目でのみ招集所で行う。招集時刻は競技開始時刻の 30 分前に開始し、20 分前に完了とする。ただし、七種競技 2 日目の走幅跳は 60 分前に開始し、50 分前に完了とする。なお、以後の招集は行わない。競技者は次の種目からは混成競技者控室に待機し、混成競技係の指示を受けること。
- ② 混成競技者控室は、諸室図参照のこと。
- ③ 混成競技者控室への付添、コーチ等の出入りは認めない。
- ④ 跳躍種目は 2 ピットで行う。競技者は、走高跳は 1 日目、棒高跳は 2 日目のそれぞれ最初の種目が終了した時点で、希望する高さを混成競技係に申請すること。なお、バーの上げ方は以下の通りとする（ただし、天候等の状況により変更することもある）。

種目		1	2	3	4	5	6	7	8	9	以降
十種競技	走高跳	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	1m93	1m96	+3cm
	棒高跳	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	4m10	+10cm
七種競技	走高跳	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	+3cm

※練習の高さは競技場所にて複数提示され、競技者はその中から選択する。

5) 助力について

- ① 当該競技に関係するしないにかかわらず、競技役員がある競技者に対して他競技者よりも有益となるような助言またはその他の支援を提供することは、当該競技者への助力とみなす。
- ② 周回種目において、周回遅れか、周回遅れになりそうな選手に競技者がペースメーカーとして競技をした場合、または先行する競技者が周回遅れの競技者のペースメーカーとして競技をした場合、両者を失格として扱う。
- ③ フィールド種目に出場している選手に対して競技エリア外(スタンド)にいる者が録画した映像を見せることは助力にはならないが、競技エリア外(スタンド)から見せることに限定され、録画した機材(ビデオ装置・携帯電話等)を競技エリアにいる競技者が手に持った場合は助力とみなす。

10. 表彰について

- 1) 各種目 3 位までに入賞した者 (B 決勝が行われた場合は A 決勝の 3 位まで) は、競技終了後に表彰を行うので、表彰対象者控場所（諸室図参照）に集合・待機し、式典表彰係の指示に従うこと。
- 2) 表彰を受ける際は、上は各校の公式ユニフォーム、下は公式ジャージを着用すること。また、ナンバーカードも着用すること。

- 3) 代理表彰は一切認めず、不在の場合、空席として表彰を行う。
- 4) すべての競技終了後、本大会最優秀選手を男女各 1 名選出し、表彰する。大会 1 日目、大会 2 日目の種目も対象となるため、選ばれる可能性のある選手は大会終了時まで競技場に残ること。

#### 11. 結果発表・抗議について

- 1) 競技結果の正式発表は、記録掲示板（正面玄関左に設置）に貼り出す事により行う。場内アナウンスでも発表は行うが、抗議については記録掲示板への貼り出し時刻が基準となるので注意すること。
- 2) 競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により、結果が記録掲示板（正面玄関左に設置）に正式発表されてから 30 分以内（同日に次のラウンドがある場合は 15 分以内）に、担当総務員（大会本部に常駐）を通じて、口頭で審判長になされなければならない。時間内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。抗議に対して審判長は速やかに裁定する。

#### 12. 衣類の管理について

- 1) トランク種目出場者の荷物運搬用としてビニール袋を主催者で用意する。氏名、大学名、ナンバーを事前に記入すること。
- 2) スタート前に脱衣した衣類等の荷物は競技役員が指示した場所に置くこと。これらの荷物は、ただちにフィニッシュに運ばれるので、各自で受け取り退場すること。

#### 13. 応急処置・緊急車両の手配について

- 1) 救急車などの緊急車両を手配する事態が起こった場合、一刻を争う事態でない限り大会本部および競技場の許可なく手配をしないこと。手配する場合は、大会本部より車両の手配を行うので、詳細を含め大会本部に連絡すること。
- 2) 競技中の事故等による身体の故障の場合、医師が応急処置を行うが、事故の結果について主催者は一切責任を負わないものとする。また、治療費等は本人負担とする。ただし、2017 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

#### 14. 応援について

- 1) メーンスタンドでの大学を明示するもの（部旗、横断幕、幟等）の使用・掲出は厳禁とする。
- 2) 横断幕は、各校 1 枚に限り掲出を許可する。その際は、必ず紐を使用し、テープ等の使用は禁止する。手持ちの幟等についてもメーンスタンド以外では掲出を許可する。
- 3) メガホン・鳴り物等による応援、メーンスタンドでの集団応援は禁止する。

#### 15. その他

- 1) 2017 年度日本陸上競技連盟競技規則の修改正点について特に注意すること。
- 3) 競技運営上、多少の競技日程の変更をする場合がある。
- 4) 競技エリア内での競技者への付添は一切認めない。
- 5) 盗難・紛失について  
主催者で預かった物品については一時保管するが、その他の物品については一切責任を負わない（遺失物等は学連控室で管理する）。

6) 荷物の搬出入について

各大学車両の競技場構内への進入は禁止する。

7) 開門と閉門時刻について

(開 門)	(閉 門)
-------	-------

1 日目<9月15日(金)>	7:30	18:30
----------------	------	-------

2 日目<9月16日(土)>	7:30	18:30
----------------	------	-------

3 日目<9月17日(日)>	7:00	18:00
----------------	------	-------

※開・閉門時刻は厳守のこと

8) 競技中に不測の事態が発生した場合は大会本部の指示に従うこと。その他、不明の点は大会本部に問い合わせること。

関東学生陸上競技連盟